

12月 定例教育委員会会議録

- | | | |
|---|------|--|
| 1 | 日 時 | 令和2年12月18日(金) 午後3時30分から午後4時30分まで |
| 2 | 会 場 | 磐田市役所 西庁舎3階 特別会議室 |
| 3 | 出席者 | 村松啓至教育長
杉本憲司委員、青島美子委員、秋元富敏委員、鈴木好美委員 |
| 4 | 出席職員 | 市川 暁教育部長、神谷愛三郎教育総務課長、川倉彰裕学府一体校推進室長、
木野吉文学校給食課長、吉村康宏学校教育課長、鈴木都実世中央図書館長、
伊東直久文化財課長、磯部公明地域づくり応援課長、川島光司幼稚園保育園課長
水谷美すゞスポーツ振興課長、内野恭宏放課後児童支援室長 |

傍 聴 人 0 人

(進行委員：秋元富敏委員)

1 開会

2 教育長あいさつ・教育長報告

○皆さんこんにちは。定例教育委員会にお集まりいただきありがとうございます。磐田市でも新型コロナウイルス感染者が40人を超えています。11月1日現在の児童生徒数は、13,691人で、保護者数は約倍近くになります。これだけの数がありますので、子どもたちの身近でも、PCR検査が行われたという情報が、多く入ってくるようになりました。今のところ、児童生徒から陽性者は出ていません。しかし、すぐ近くまで新型コロナウイルスが押し寄せていることは確かなことで、冷静な判断のもとに、対応していくことが必要であると考えています。新型コロナウイルスに感染したからといって、自分の安全のために、排斥することがないようにしなければならぬと考えています。修学旅行は、行き先を変えたり、宿泊数を減らしたりして、26校が実施できました。今後も予定している学校がありますので、安心安全を最優先に考え、実施できる方向で考えていきたいです。

静岡県いじめ問題対策連絡協議会に出席し、関西外国語大学の新井教授の講演を聞きました。その中で、これからの学校づくり、学級づくり、地域づくりに生かすことができるのではないかといい内容がありました。「全国で最も自殺率の低い町の特徴」という研究をした方がいます。「生き心地の良い町」という本を岡檀さんが書いています。徳島県海部郡海陽町は全国で8番目に自殺が少ない町です。他の上位の7つは全て島だそうです。その率が低い要因は何かというと、異質な要素を受け入れ、多様性を重視していること。人物評価を多角的に、長期的に行っていること。例えば、一回の失敗で、その人を集団から疎外せず、一度目は堪え、我慢するということです。自己信頼感、自己有用感を醸成すること。これは市の部課長会でも少し話しましたが、「どうせ自分なんて」と、考えないようにすることです。組織の中で、「役に立っている」ということを思うことが大切です。上司から部下に言ってもらいたい言葉があります。それは「ありがとう」です。このことで、自己有用感が醸成されます。一つの町づくりの形が、ここに存在しているのだと感じました。緊密過ぎない、ゆるやかな繋がりを維持する。まさに、新しい生活様式の中で、ゆるやかな繋がりが、これからの日本で、かなり重要な位置を占めてくると思います。それから、問題があれば早期に開示し、介入すること。そして、その問題に対する解決策をすぐに行うことが大切です。生き心地の良い町づくりの内容は、今までと違うアプローチで、学級づくり、学校づくり、地域づくりに繋がっていくのではないかと思います。バブル前、「24時間働けますか」という、当時の日本の企業を象徴したような言葉がありました。今はゆるやかな繋がりを、多様性を受け入れながら、着実

に前へ進んで行くことが、いろいろな場面で求められていると、改めて思うところです。不登校や虐待について、この辺のことが、解決の一つの方法になり得るのではないかと思います。

3 前回議事録の承認

11月26日定例会

- ・修正の意見なし
- ・原案のとおり承認

4 教育部長報告

○これまでの市の動きについて報告します。新型コロナウイルス感染者が、市内でも継続的に発生するようになりました。12月17日現在で47人となりました。本市では12月10日に、7月以来となる、19回目の対策本部会議を開催し、4点について協議をしました。1点目は、磐田市の感染状況の特性の分析。2点目は、高齢者障害者施設のクラスター防止のための巡回訪問をすること。3点目は、本部会議の下に作業部会を作ること。4点目は、磐田市民への無料ワクチンの接種の準備についてです。本市の感染経路の特徴としては、隣接市の飲食店関係に起因するものが多いと分析しております。その他には、感染経路が特定できる、外部から家族への感染ということで、いわゆる市中感染はないということです。しかしながら、感染者の数を見ると、静岡県は、全国で12番目であり、大都市の感染拡大地域を除くと、かなり高い順位となってしまっています。このような中、11月議会での補正予算案として、県から委託されていた、PCR検査センターを延長するための費用計上や、施設や学校従事者への磐田市独自PCR検査の実施、さらに高齢者及び基礎疾患のある方へも実施します。また、修学旅行の延期等に係る経費の支援を実施します。ひとり親世帯へ、再度給付金を配るということなど、総額3億5,000万円を上程し、本日、議決されました。引き続き、学校を中心とした感染防止対策に努力と支援を行っていきます。

<質疑・意見>

○磐田市独自のPCR検査の開始はいつ頃になりますか。

○できる限り早く実施できるように準備を始めているところです。検査場所、自己負担額等の詳細につきましては、今後、担当部局よりお知らせしていきます。

5 議事

・議案第58号 磐田市指定文化財の指定解除について

○対象となる文化財は、磐田市池田にある、宗教法人行興寺が所蔵する「熊野絵巻」です。この文化財の指定の経緯は、平成6年4月に旧豊田町の指定文化財となり、平成17年11月に、新磐田市の指定文化財となりました。その後、令和2年12月8日に静岡県の指定文化財に指定されました。磐田市文化財保護条例第5条により、文化財指定解除に関する規定があり、その第3項で、「市指定有形文化財が、県の有形文化財の指定を受けたとき、当該市指定有形文化財の指定は解除されたものとする」と規定しています。また、同4項で、「教育委員会は、その旨を告示する」と規定していますので、今回指定解除の報告をした後、告示をするものです。

<質疑・意見>

○県の文化財の指定を受けたことにより、市の管理とどのような違いがありますか。

○文化財の管理は市の時と同様に所蔵者が行います。違いとして、例えば、修復等で費用がかかる

場合に補助がありますが、市の場合は修復に掛る費用の3分の1ですが、県の場合は2分の1まで補助がされ、その上限額は750万円となっています。

この絵巻は公開されたことがあまりなく、人の目に触れる機会がありませんでした。過去の記録としては、平成5年にサントリー美術館に貸し出されたことが一度だけありました。今回、県の指定を受けて、絵巻の公開について行興寺の住職に話を伺ったところ、「県の指定を受けましたので、公開できる機会があれば協力していきたい」と、話していました。県としても、何かしらの機会を設けて、展示していきたいと考えているようです。

<議案の承認>

一同同意

審議の結果、議案第58号は原案どおり承認された。

6 報告事項

(1) 地域づくり応援課

<質疑・意見>

なし

(2) スポーツ振興課

・次期磐田市スポーツ推進計画の策定について

○今回は、平成28年度に策定した現行計画が中間年を迎え、見直しの年度に当たることから、令和3年度からの5年間の新たな方策等について定めようとするものです。策定に当たっては、市民意識調査の結果やこれまでの各事業の実施状況、庁内検討組織及び磐田市スポーツ推進審議会の意見を踏まえたいと考えています。それでは、現時点での次期計画の概要について説明いたします。まず、目指すべき姿は、現行の計画から変更はありません。次に、目標は、スポーツ実施率を2025年までに60%以上の達成を掲げました。現計画においては目標を55%と掲げまして、結果は51%と達成はできませんでしたが、現計画期間で7ポイントの上昇があったことから、次期計画の目標を現状プラス7ポイント、これに新たな施策・事業の実施でプラス2ポイントを見込み60%以上と設定しました。次に、5つの柱についてですが、これまでの計画では、「スポーツを支える人材」と「スポーツを行う施設」について各々柱を設けていましたが今回の計画では、スポーツの環境ということで1本化しています。そして、新たな柱として新たな時代に対応した施策の柱を設けました。それから、各々の柱に数値目標を設定し、客観的評価ができるようにしました。それでは、各政策について説明をします。まず、子どものスポーツ機会の充実につきましては、未就学児には体を動かすことの楽しさを、そしてその保護者には大切さを感じることができる取組を進めていきたいと考えています。また、小中学生には学校体育を補完できるような取組を考えていきます。次に、ライフステージに応じ誰もがスポーツを親しむ機会の創設につきましては、30代から50代までのスポーツ実施率が低い世代への取組を進めていきたいと考えています。また、障がい者スポーツに関しては、普及だけでなく、障がい者スポーツのすごさやすばらしさをPRできる機会の創設にも努めていきたいと考えています。

次に、スポーツ環境の基盤となる「人」と「場」の充実につきましては、スポーツを支える人や、スポーツを行う場の確保・維持だけでなく地域にある資源として、大学やスポーツ団体との連携を図ることで市民がスポーツに取り組みやすい環境を整えていきたいと考えています。次に、トップレベルのスポーツを体感する機会の充実につきましては、これまでも2つのジュビロと連携・協力

して一斉観戦や各種教室などの事業を実施してきました。今後は、市政情報の発信などについても連携して取り組むことでこれまでスポーツに関心がなかった方々へのアプローチを進めていきたいと考えています。次に、新たな時代に対応した施策等につきましては、当面続くことが想定されるコロナの影響下においても、市民のスポーツ機会を確保していくための取組を進めていきたいと考えています。また、他のイベントなどと絡めることでスポーツへの関心を高めていきたいと考えています。最後に今後のスケジュールですが、来年1月中旬から2月中旬にかけてパブリックコメントを実施し、4月の公表を予定しています。

<質疑・意見>

○実施率が上がり良いことだと思います。スポーツの定義を教えてください。

○身体的な活動としています。野球やサッカーなど、協議ルールに基づいて勝敗を決めるものばかりでなく、自分の趣味や能力に応じた歩くことなども運動としていて、幅広く捉えています

○年齢を重ねると、家にこもりがちになりますが、スポーツの推進は大切だと考えています。私も1時間程度、歩くことをしています。外の空気に触れると、気分転換にもなりますし、近所の人とも会話ができ、コミュニケーションを図ることもできます。このように、日常的にスポーツを行うことも、大切だと考えています。毎日の生活の中で、わずかな時間であってもスポーツする意識が大切だと考えています。

○日常生活の中で運動を意識することが大切だと考えています。例えば、通勤時に車を使っているところを歩くようにする、職場でエレベーターを使わないで階段を上ることなど、「ながらスポーツ」が大切だと思っています。国のスポーツの定義の考え方も幅広くなってきていますので、あらゆる身体活動をスポーツとして捉え、健康な体作り、生きがい作りに努めていきたいと考えています。引き続き「ながらスポーツ」などを啓発し、具体的な活動を市民にわかりやすい形で発信していきたいと考えています。

○是非、啓発や情報発信をお願いします。スポーツというと、ルールに従った勝敗を決するもので、動きが激しいイメージがあると思いますが、日常の中で、心身ともにリフレッシュするような活動も、スポーツであることを積極的に広めていただきたいと思います。

(3) 幼稚園保育園課

<質疑・意見>

なし

(4) 教育総務課

<質疑・意見>

○向陽学府新たな学校づくり検討会の内容を教えてください。

○学校以外の施設の機能について、地域連携室、(仮称)福祉交流支援室、家庭科調理室併設のランチルーム、共同調理場、放課後児童クラブの5つを、事務局から提案しました。提案内容については、概ね受け入れていただきました。その他の意見として、「出来るだけたくさんの方が入れるランチルームにしてほしい」、「男子トイレもすべて個室にしてほしい」、「給食は委託なのか」などの意見がありました。

(5) 学校給食課

<質疑・意見>

なし

(6) 学校教育課

<質疑・意見>

なし

(7) 中央図書館

<質疑・意見>

なし

(8) 文化財課

<質疑・意見>

なし

7 協議事項

なし

8 その他

○先日、磐田西小学校の学校運営協議会を見学したときに、教頭先生から不登校の人数が減ったという話がありました。学校としては、新型コロナウイルス感染症対策として、昼休みを短縮して、15 時台に下校するようにしたことくらいで、他には大きく学校生活のリズムを変えていないとのことでした。

○10月、11月の時点で昨年度と比較すると、新規の不登校児童生徒は減っています。例年ですと、年が変わると増加する傾向がありますので、引き続き動向を注視したいと考えています。コロナ禍の中で、学校へ行けるようになった児童生徒がいるのも事実です。その理由のひとつとしては、全体が休校になったことで、自分だけ学校へ行けてないという、自分を責める気持ちが少し解消され、新たなスタートが出来たのだと考えています。

○磐田市の不登校の状況について補足します。小学生の不登校の平均は、静岡県や全国平均よりも下回っています。また、中学生は静岡県の平均よりも僅かながら上回っています。ここ5年間を見ても、静岡県の不登校の増加率よりも、磐田市の増加率は下回っています。全体の不登校の数は増加傾向にありますが、相対的に見ると、小学校は低くなっているということが言えます。

○豊岡南幼稚園の「表現遊び」を参観させてもらいましたので、その報告をさせていただきます。11月13日に学校訪問があり、その時に保護者参観会のための、表現遊びの準備作業を見学しました。年少、年中、年長に関わらず、生き生きと動き、会話している姿が非常に印象的でした。帰りがけに、その話を園長先生にお話したところ、「12月2日に、表現遊びの保護者参観会がありますので、是非、参観ください」と、声をかけていただきましたので今回参観しました。園児が関心のあった絵本を選び、本を読んだ中から受け取るイメージや思いを、自分の言葉で作りに上げているようでした。それぞれが思い浮かべるストーリーを、園児自らが作り上げ、言葉や行動になって表現されていたことが、生き生きとした姿に見えました。教育長が以前「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」という言葉を紹介していましたが、このような活動を見る上で、幼児教育の重要性を改めて実感しました。それから、共同で作業をしていく中で、仲間との話し合いや、意見

の交換などをして、作り上げていく過程が、非常に大切な意味があると感じました。これらのことは、文科省が目指す、アクティブラーニングそのものになるのではないかと思いました。磐田の幼児教育の質の高さに心を打たれました。

○本日の報告や感想を他の園にも報告させていただきます。このような活動は、他の園でも実施していますので、先生たちのモチベーションも高まると思います。

9 次回教育委員会の日程確認

・定例教育委員会

日時：令和3年1月22日（金）午後3時00分から

会場：市役所西庁舎3階 特別会議室

10 閉会